

新型コロナワクチン(ファイザー)接種後の健康調査結果のまとめ

あいち肝胆膵ホスピタル

2021年7月

1.被接種者 (初回4月非接種者に限る:使用 ワクチン ファイザー社製)

合計	45名 (女性39名、男性6名)								
業種別	看護師	24	検査部	6	事務部	5	薬剤部	3	
	放射線部	3	栄養部	3	医師	1			
年齢・性別									
20才代	5	30才代	11	40才代	18	50才代	9	70才代	2
女性	4	女性	10	女性	18	女性	6	女性	1
男性	1	男性	1	男性	0	男性	3	男性	1

2.第1回目後調査結果 (複数回答)

1)接種部位反応

なし	11名	24.40%	
あり	34名	75.60%	
①穿刺部痛	33	97.1%	(穿刺部軽度疼痛を除く)
②硬結	2	6.0%	
③熱感	2	6.0%	
④上肢可動困難	2	6.0%	
⑤上肢倦怠感	1	3.0%	
⑥かゆみ	1	3.0%	
症状出現時間			
6時間以内	18	58.1%	
12時間以内	9	26.5%	
18時間以内	1	3.0%	
24時間以降	3	8.8%	
症状回復時間			
12時間以内	3	10%	
24時間以内	6	20%	
2日以内	18	60%	
3日以上	3	10%	

2)全身反応

なし	29	64.4%
あり	16	35.6%
発熱	5	31.3%
倦怠感	3	18.6%
頭痛	3	18.6%
悪寒	1	6.3%
リンパ節腫大	1	6.3%
鼻汁	1	6.3%

3)出現時間

20代	平均	12時間
30代	平均	9時間

4)予防薬使用

発熱なし	37度台	38度代	39度以上	38度以上
なし 35名 31(88.6%)	3(8.6%)	1 (2.9%)	0 (0%)	2.9%
あり 10名 9 (90%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0.0%

5)治療薬使用

なし	29
あり	16
アセトアミノフェン	6
NSAID	10

* 予防薬による副作用報告はありませんでした

6) 効果判定	記載	9名	
有効		4	44.4%
やや有効		3	33.3%
ほとんど無効		1	11.1%
全く無効		1	11.1%

第2回目調査結果

(1) 接種部位反応

なし	5名	11.1%
あり	40名	88.9%
(重複症状あり) (穿刺部の経度疼痛を除く)		
疼痛	34	85.0%
発赤	14	35.0%
熱感	13	32.5%
腫脹	12	30.0%
かゆみ	10	25.0%
硬結	2	5.0%

症状出現時間

5~28時間 平均 12.1時間

年齢差 なし

症状回復時間

2~90時間 平均 38.7時間

90時間除外 2~60時間 平均 34.1時間

*年齢差・性別差 不明

(2) 全身反応

①症状の有無

なし 8 (17.8%)
あり 37 (82.2%)

全身倦怠感	27	73%	最高値39.9度
発熱	23	62.2	
関節痛	15	40.5	
筋肉痛	14	37.8	
悪寒	13	35.1	
頭痛	4	10.8	
鼻汁	2	5.4	
下痢	1	2.7	
眠気	1	2.7	
腹痛	1	2.7	

*年齢差・性別差 不詳

年齢・性別の有症状率

	女性		男性			
20代 (女4男1)	4	80%	3	75%	1	100%
30代 (女10男1)	10	91%	9	90%	1	100%
40代 (女18男0)	15	83.3%	15	83.3%	0	0
50代 (女6男3)	7	77.8%	5	83.3%	2	66.7%
70代 (女1男1)	1	50%	1	100%	0	0

②出現時間

20代	6~18時間	平均	12時間
30代	2~18時間		9時間
40代	2~24時間		13.2時間
50代	6~28時間		17.5時間
70代	20時間		20時間

*年齢差、男女差不詳

③回復まで時間

20~90時間 平均 38.7時間
90時間を除くと 34.1時間

*年齢差、男女差不詳

(3) 就業への影響

早退、遅刻、休業

20代	1名(男性1)	20.0%
30代	4名(女性3、男性1)	36.4%
40代	4名(女性4)	22.2%
50代	3名(女性2、男性1)	33.3%
計	12名	26.7%

(4) 予防薬使用

① あり	21名	46.70%
なし	24名	53.30%

② 予防薬使用と発熱

	発熱なし	37.0~37.9	38.0~38.9	39.0~	予防薬効果(38度)
使用あり	8(38.0%)	7(33.3%)	5(23.8%)	1(14.8%)	6(28.6%)
使用なし	13(54.2%)	7(29.2%)	4(16.7%)	0(0%)	4(16.7%)

全身倦怠感、発熱、関節痛、筋肉痛、悪寒の出現者で見ると、

使用あり	15(71.4%)
使用なし	19(79.2%)

上記のうちの2項目に関しては

使用あり	12(57.1%)
使用なし	13(54.2%)

* 上記に関する年齢差、男女差不詳

* 予防薬は副反応の抑制に明らかな貢献はなかった

* 予防薬に原因すると思われる副作用の報告はなかった

(5) 治療薬使用の有無

なし	19	42.2%
あり	26	57.8%
アセトアミノフェン	13	
NSAID	13	

* 治療薬の効果判定

有効	11	50.0%
やや有効	10	45.2%
ほとんど無効	0	
全く無効	1	4.5%

* 症状発生時の治療薬はおおむね有効

(6) 来年以降も受けるか否か (記載があったもの)

① 条件付きで、受けたい

- 翌日仕事が休みであれば受ける
- 効果があるならば受りたい
- 副反応軽減されれば受けたい
- 情報を見て

② 受けたい

- 予防薬なし 7名
- 予防薬あり 8名

合計

まとめ

1. 圧倒的に女性が多い当院職員のワクチン接種後の性差による比較は困難であった。
2. 第1回接種後では、アナフィラキシーを生じたものはなかった。
3. 第1回接種後の注射部位副反応の出現率は75.6%と高値であり、大部分は注射部位疼痛であったが、多くは2日以内で消失した。
4. 第1回接種後の全身反応は35.6%に出現し、発熱(31%)、倦怠感(19%)、頭痛(19%)が主であった。発熱は40歳代までの女性に多い傾向があった。1名が発熱最高値39.9度に達して症状が持続した。
5. 接種前のアセトアミノフェン、NSAIDなどの予防薬に内服の有無は、38度以上の発熱には差がなかった。
6. 第2回目接種後1名が強い発熱などの症状はあったが、アナフィラキシー症状はなかった。
7. 第2回目接種後は初回に比して全身倦怠感(73%)、発熱(62.2%)の発症率が高く、関節痛(40.5%)、筋肉痛(37.8%)、悪寒(35.1%)などの症状が高率に発現した。また多くは女性での発症であった。なお症状の多くは2日以内で消失した。

8. 早退、遅刻、休業など就業に及ぼした症状は12名あり、従業員の26.7%に及んだ。各事業施設において集団接種を受ける場合、職域ごとに翌日以降の就業への影響を考慮しての接種者の順番を配慮する必要があると考えられる。
9. 第2回目接種前の予防薬の内服は、非内服者の副反応より有効を示すものではなかった。
10. 症状発症後のアセトアミノフェンや、NSAIDなどの薬剤の効果はおおむね有効であった。

個別コメント

- 1) 発熱時はインフルにかかったように関節痛がひどかった。起き上がることもままならず、身体を動かすことがとても苦痛だった。解熱してからも頭痛を倦怠感が長く続き、NSAID内服もしばらく続けた。接種が必要なら受けます。接種後の勤務体制の調整は必要。
(*2回目接種後 予防薬:NSAID)
- 2) ○/10 14時 ワクチン接種 局所が痛いのみ
/11 6時 全身倦怠感・関節痛・筋肉痛・BT37.4℃ ロキソプロフェンナトリウム水和物内服し出
8時30分 BT38.3℃ 悪寒有
10時 BT39.0℃ 帰宅(早退)
12時30分 BT39.9℃ ロキソプロフェンナトリウム水和物内服
15時 解熱しはじめる BT38℃ 発汗あり
18時 BT37.0℃ 倦怠感残る
/12 6時 BT37.3℃ 出勤、NSAID内服、倦怠感残る
10時 元気になってきた
12時 いつも通りの体調に戻る
(*2回目接種後 予防薬:NSAID)
- 3) さほど重篤ではなかったです。一番強い症状は1回目の腕があがらなかったことですが丸一日で軽減しましたので苦痛ではなかった。普段の片頭痛発作の方がよっぽどつらいです。来年以降ももちろん接種します。私は2本目より1本目の方が腕の痛み、倦怠感ともに強かったです。
(*2回目接種後 予防薬なし)
- 4) ワクチン開発の状況(安全性 有効性 種類など)の様子と新型コロナウイルス感染症の発生状況を鑑みて検討予定。インフルエンザと異なり、猛威をふるう時期も不測のため毎年予防接種か決まらない。対症療法にしる治療薬の開発が望まれる。来年接種する際は翌日休みを頂けるなら接種を希望します。
- 5) 発熱と同時に頭痛がでてきてひどくなっていった。頭痛が一番つらかった。
(*2回目接種後 予防薬:アセトアミノフェン)
- 6) 同僚のみなさんの様子に比べ自分は軽かった。mRNA導入の長期的観察が行われてから決めると思う。
(*2回目接種後 予防薬:アセトアミノフェン)

集計後コメント

以上本年4月から5月にかけて行った当院の常勤、パート職員のうちの初回ワクチン接種を受けたものに対するアンケートをまとめてみました。解釈の違いはあるとは思いますが、大変きつかったという2名はありましたが、その他の副反応が出現したものを含めて、全員やや安心感をもって通常の勤務を行っていた。日本の医療崩壊、並びに生命の危機の現状から、副反応の強調より、このまま新型コロナウイルスがさらに蔓延した時の生命、また回復した際の様々な後遺症を考えた場合、通常の社会に早く戻すためにはワクチン接種が禁忌の方を除くすべての国民がワクチン接種を受けて、早く国民の大多数が抗体を有する状態に持っていくことに期待するしかないと考えます。

当院では患者さんご家族に限っての一定の制限の中での面会を可能としていますが、幸いにして8月30日までのところでは、患者さん並びに職員に感染者は発生していません。

しかしながら、愛知県内におきましてもデルタ株の影響によると思われる想像以上の急速な感染者が発症していることから、私どもが不顕性感染者を確実に確認することは不可能となっています。

そのような事態でありますので、当院としても患者さんご家族の面会を継続するためには、面会の基準をさらに厳格にせざるを得ないと考え、患者さん側のさらなるご理解とご協力を得まして、より厳格な管理のもとでの患者さん・ご家族のふれ合いの中での診療を継続させて頂きたく所存であります。

2021年8月28日(内容一部改変)
あいち肝胆膵ホスピタル
院長 末永 昌宏